

シンポジウムS1-1

当院の高気圧酸素治療のCOVID-19対策

長生浩輔¹⁾ 門田 秀¹⁾ 別府信幸¹⁾長野準也¹⁾ 楠 勝介²⁾

- | | | |
|----|---------|-------|
| 1) | 済生会松山病院 | ME部 |
| 2) | 済生会松山病院 | 脳神経外科 |

【目的】

2020年からの新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の流行により、病院での感染症対策が重要になっている。そこで、当院の高気圧酸素治療（以下HBO）でも感染症への対応を強化した。その一連の対応について報告する。

【方法】

当院では第1種高気圧酸素治療装置BARA-MEDを使用しており、過去5年間の年間新規導入患者数は35名から60名で、そのうち感染症を有している割合は8.3～22.7%であった。これまでは感染症を有する患者に対してのみ個別で感染症対策を行ってきた。COVID-19の流行を機に当院におけるHBOの感染症対策の見直しを行った。

【結果】

2020年11月より発熱外来を設置し、2021年5月からCOVID-19患者の入院も受け入れるようになった。標準予防策に加え、COVID-19に対するマニュアルの作成や、毎週の新型コロナウイルス感染対策委員会で院内への感染症対策の徹底で、幸いにも現在に至るまでCOVID-19の職員感染、院内感染やクラスターは一度も起こっていない。これらの病院の対策に加え、HBOにおける感染症対策の見直しを行った。COVID-19流行以前はHBOにおける感染症対策は、感染症患者に対してのみスタッフのサージカルマスクの着用、ブランケットなどの使い分け、治療終了後に使用したバスタオルやシーツの交換、血圧計や心電図用電極、ストレッチャーのセーフキープ（第4級アンモニウム塩等）による清拭を行っていた。一般患者に対しては治療時のバスタオルの交換しか行っていなかった。無症状のCOVID-19患者も存在することから、以下の感染症対策を更に追加し実施した。①濃厚接触を避けるため感染症が確認されていない患者に対し

でもスタッフのサージカルマスクの着用や、血圧計、心電図用電極、ストレッチャーのセーフキープによる清拭の実施。②スタッフのHBO開始後と終了後の手洗いの徹底。③HBO終了後次の治療まで5分間のHBO室の換気。④HBO開始前の患者状況チェックリストに味覚障害などCOVID-19に特有の症状の追加。⑤発熱患者に対する従来のHBO禁止基準を38.5℃から37.5℃へ変更。⑥患者のHBO前後のマスク着用の徹底。以上を感染症対策として新たに取り入れた。この対応で、現在に至るまでHBOにおけるCOVID-19は確認されておらず、安全にHBOを継続することができている。

【考察】

本県は感染多発地区でないこともあるが、今回の感染症対策を追加することにより、現在までCOVID-19の防止はできている。しかし、今回検討したところ感染症対策はまだ不十分であった。その一つにHBO装置に対する消毒がある。当院ではHBO装置へのアルコール使用による劣化や引火の危険性を考慮し、ストレッチャーや血圧計などはセーフキープを使用している。セーフキープはCOVID-19への消毒効果はあるが、弱酸性であり、中性での清拭が推奨されているアクリル部分には、水拭きのみで対応している。この他に、COVID-19への消毒効果があるものとしてUVライトがあるが、アクリル樹脂を使用している当院のHBO装置は劣化の恐れがあるため使用ができない。そこで、アクリル部分にも使用でき、COVID-19への消毒効果も認められている消毒液を検討した。その結果、同じ花王社製の医療施設用クリンキーパーが適切であった。次にHBO室の換気である。当院のHBO室の出入口は扉1つの個室となっており、窓もないため、換気が不十分である。そのため、換気の方法を検討した結果、コスト面を考慮し、空気清浄器の導入を今後検討していく。これらの改善により、更なる感染対策に努めていきたい。

【結語】

COVID-19の流行に伴い、当院のHBOの感染症対策を見直した。それによりHBOによる院内感染は防いでいる。今後も更なる感染症対策を追求していきたい。